

地球深部探査船「ちきゅう」と連携した「砂プロジェクト」

Project 'Sands for Students' - An outreach activity linked with 'Chikyu' and IODP

宮下 敦 [1]; 横山 一己 [2]; 平 朝彦 [3]; 斎藤 靖二 [4]; 伊藤 久男 [5]; 眞砂 英樹 [6]; 青池 寛 [7]; 中井 睦美 [8]; 雁沢 夏子 [9]; 金川 和人 [10]; 小田桐 茂良 [11]; 田中 克人 [12]

Atsushi Miyashita[1]; Kazumi Yokoyama[2]; Asahiko Taira[3]; Yasuji Saito[4]; Hisao Ito[5]; Hideki Masago[6]; Kan Aoike[7]; Mutsumi Nakai[8]; natsuko Ganzawa[9]; Kazuto Kanagawa[10]; Shigeyoshi Odagiri[11]; Katsuhito Tanaka[12]

[1] 成蹊高; [2] 国立科博・地学; [3] 東大・海洋研; [4] 国立科博・地学; [5] JAMSTEC; [6] JAMSTEC/CDEX; [7] C D E X / J A M S T E C; [8] 大東大・文・教育; [9] 遺愛女子中高; [10] 厚真高校; [11] 青森南高; [12] 青森高

[1] Seikei High; [2] Dept. Geology and Paleontology, National Science Museum, Tokyo; [3] Ocean Research Institute, Univ. of Tokyo; [4] Dept. of Geol. Natn. Sci. Mus.; [5] JAMSTEC; [6] JAMSTEC/CDEX; [7] CDEX / JAMSTEC; [8] Education, Daito Bunka Univ.; [9] Iai High School; [10] Atsuma Highschool; [11] Aomori Minami High School; [12] Aomori High School

21世紀の地球科学において重要な役割を果たすIODPの中核となる地球深部探査船「ちきゅう」の活動が開始されようとしている。「ちきゅう」の活動に関連して、掘削地点における堆積物の後背地解析のために、堆積物を供給している河川等の堆積物の分析データが必要である。このためには、広範な地域から多数の試料を集めなくてはならないが、堆積物の採取は難しい作業ではないので、小学校～高校の児童生徒と連携した研究活動が可能であると考えられる。

2006年に下北沖で試掘が行われるのに合わせて、試験的に北海道と青森県の中学高校に協力を求め、掘削地点に流入している河川の堆積物採取と分析を行った。採取活動に合わせて、IODPの意義と堆積物解析の手法について現地で説明会を開いた。採取試料については、国立科学博物館でモード組成、鉱物組成およびU-Th-Pb年代測定等が行われた上、高知コアセンターに保管・データベース化された。分析データ等はWeb上で公開され、参加者に還元される。

これまでのこうしたアウトリーチ活動は、講演や疑似体験をするものが多かったが、このプロジェクトは、参加者の活動が本格的な科学研究に寄与することができる点で大きなインパクトがある。今回のパイロット事業の成功を受け、「ちきゅう」の活動に合わせて、アジアを中心に国際的な教育および交流の場として展開することを検討している。